



陶磁器

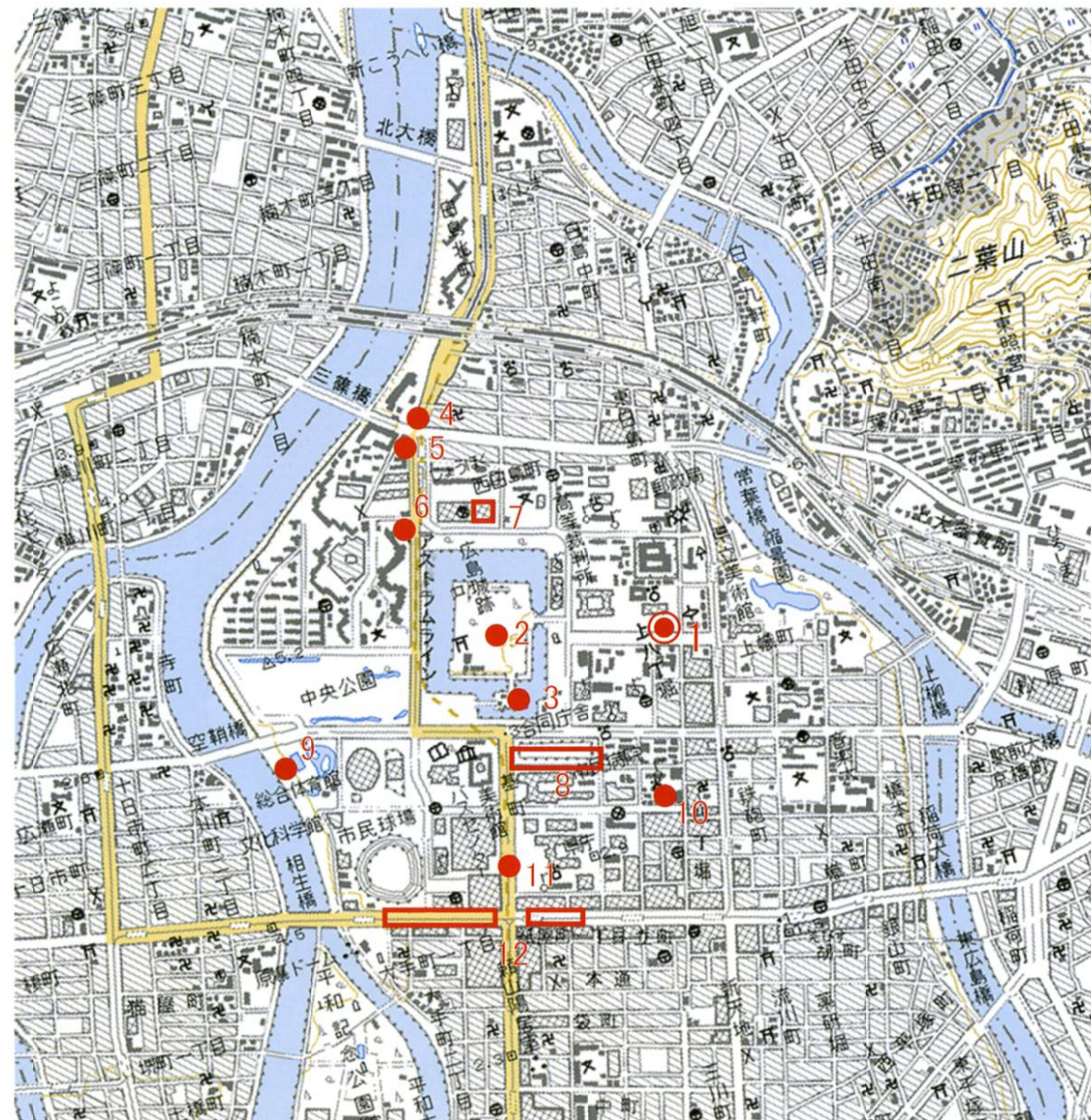
広島城跡から出土する陶磁器類の多くは九州・肥前（現在の佐賀県）産のものです。



人形

ほとんどが素焼きのもので、人物や犬・猿などの動物のほか、天神や大黒など人々の願いが込められた題材を見ることができます。

広島城関連遺跡分布地図



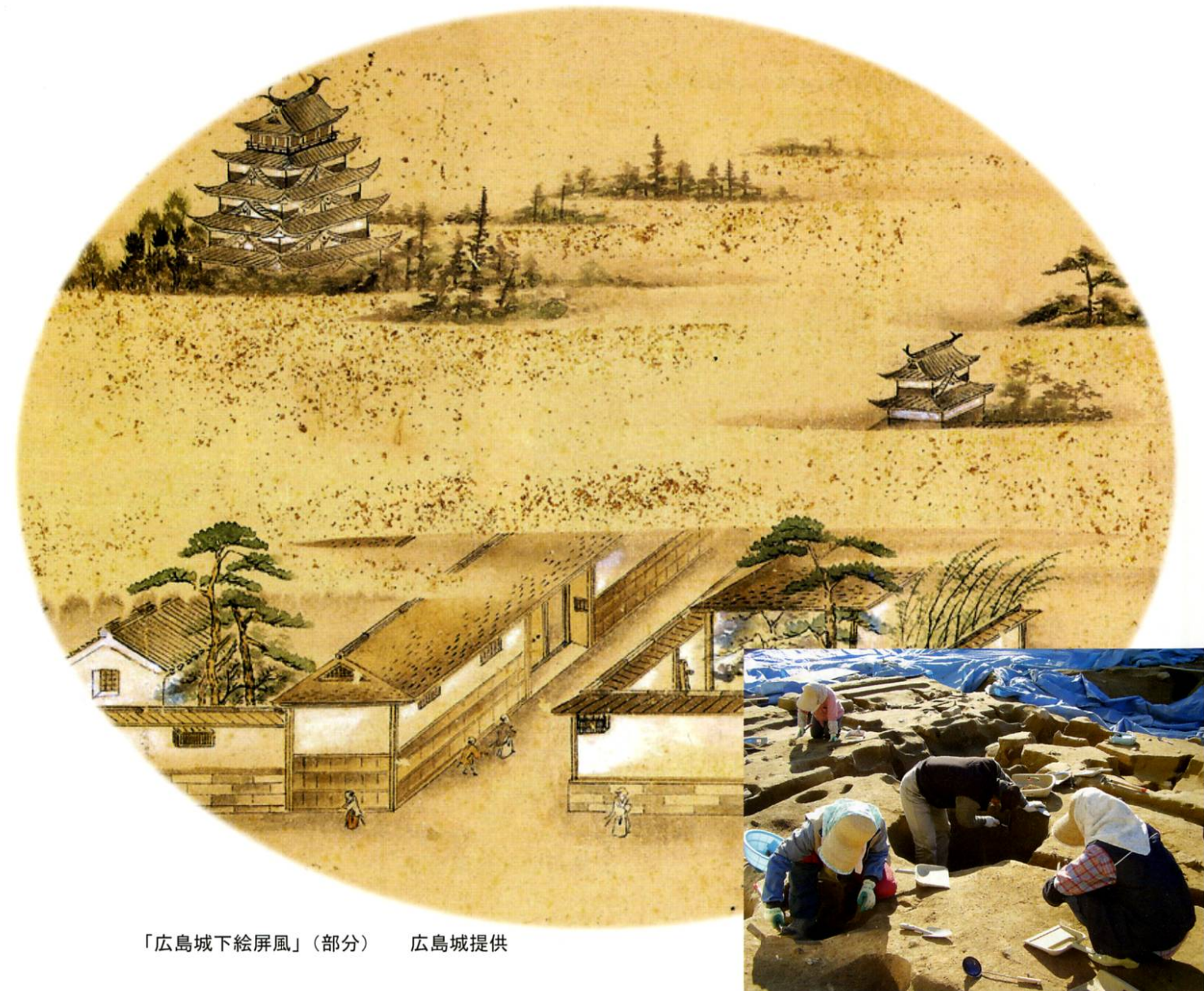
- 1 法務総合庁舎地点武家屋敷跡 2 本丸 3 二の丸 4 城北駅北（旧西白島）交差点地点外堀跡
- 5 北西隅櫓台跡 6 基町高校前交差点地点中堀跡 7 基町高校グラウンド地点武家屋敷跡
- 8 中央庭球場地点中堀跡 9 外郭櫓台跡 10 太田川河川事務所地点武家屋敷跡
- 11 県庁前地点武家屋敷跡 12 地下街地点外堀跡

広島城跡

法務総合庁舎地点

（中区上八丁堀 所在）

本遺跡は、かつて「八丁堀」と呼ばれていた外堀に面した武家屋敷地にあたります。
 天守閣の南東およそ450メートルに位置し、城外への出入り口ののひとつとしての「栗林御門」が北側にあり、この地域一帯は「栗林」と呼ばれていました。
 今回の調査では、外堀や武家屋敷に関連する井戸やごみ穴、屋敷境の溝などが確認されました。



「広島城下絵屏風」（部分） 広島城提供



外堀

底の部分がもともと外堀に使われていた石垣です。上の部分は石の積み方や形状が異なるため、明治以降新たに積みなおされたようです。反対側にも同様の石垣があるので、堀が埋め立てられた後も溝として利用されていたようです。



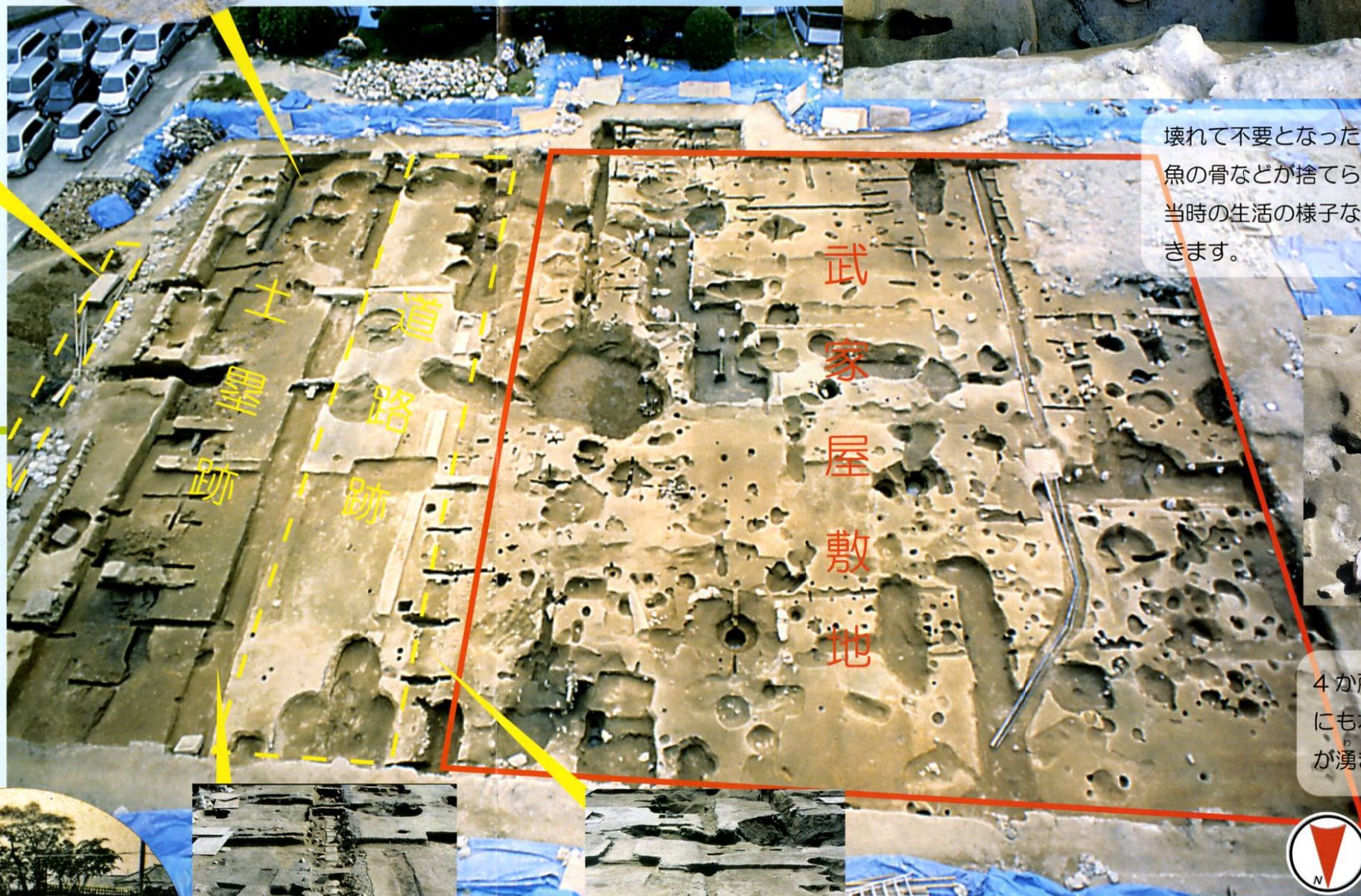
なぞの頭骨！？

どろい
土塁の基礎部分から見つかりました。人間の頭の骨で、性別は不明、横向きに埋まっていた。どうしてここにあったのか・・・



ゴミ穴

壊れて不要となった陶磁器類、瓦のほか、貝や魚の骨などが捨てられています。このゴミから当時の生活の様子などをうかがい知ることができます。



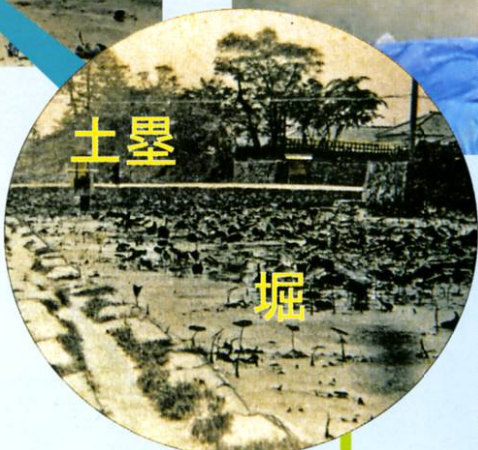
井戸

4か所確認できました。どの井戸にも木枠が残っており、今でも水が湧き出ます。

八丁堀



「八丁堀」は長さが約880メートル＝八丁あることから名づけられました。この写真は明治末期のもので、当時の土塁や堀の様子をうかがい知ることができます。
明治末年、悪臭問題等で埋め立てられしまい、その正確な場所が今までよくわからなくなっていました。



広島市公文書館提供



現在も残っている広島城の土塁



土塁と道路の間の溝

底には石が敷かれ、石と石の間は漆喰でぬり固められています。



屋敷境の溝

道路と屋敷との間につくられた溝です。生活排水のためのものでしょうか。

この場所は江戸時代を通じて武家屋敷地だったようです。江戸時代中頃の寶永7年（1710）には、大目付や奉行といった藩の重役が定期的に集まって協議を行う場である「御用屋敷」が置かれました。しかし、江戸時代の広島城下町を襲った最大の火災である「寶暦の大火」によって、この御用屋敷は類焼してしまいました。